

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●幸英明騎手がJRA通算2万4000回騎乗を達成

8月10日(土)の2回中京1日・第3レースでエデュースに騎乗した幸英明騎手(栗東・フリー)は、この騎乗で史上2人目・現役2人目となるJRA通算2万4000回騎乗を達成しました。デビューから30年5か月6日・48歳6か月30日での2万4000回騎乗達成で、これは武豊騎手の36年1か月8日・54歳0か月25日を更新する史上最速および最年少記録となります。

●斎藤誠調教師がJRA通算500勝を達成

8月10日(土)の3回新潟1日・第2レースではクールソルが1着となり、同馬を管理する斎藤誠調教師(美浦)は、現役26人目となるJRA通算500勝(延べ5858頭目)を達成しました。

●「2024ワールドオールスタージョッキーズ」出場騎手決定

8月24日(土)と25日(日)の2回札幌5日・6日に行われる「2024ワールドオールスタージョッキーズ」に騎乗する騎手が決定しました。JRA代表は横山典弘、松山弘平、C.ルメール、戸崎圭太、坂井瑠星、川田将雅、武豊、地方競馬からは吉村智洋(兵庫)、外国騎手はK.ティータン(香港)、C.ホー(香港)、D.レーン(オーストラリア)、J.モレイラ(ブラジル)、T.オシェア(アラブ首長国連邦)、D.サンチアゴ(フランス)となっています。

●藤田菜七子騎手がシャーガーカップに出場

8月10日(土)、イギリスのアスコット競馬場で騎手のチーム対抗戦「ドバイデビューティフリー シャーガーカップ」が開催され、世界選抜チームの一員として出場した藤田菜七子騎手(美浦・根本康広厩舎)は4着、9着、6着、7着、5着で計8ポイント獲得、世界選抜チームは第3位(58ポイント)という結果。女性騎手選抜チーム(71ポイント)が優勝し、同チームのH.ターナー騎手が個人最多となる35ポイントを獲得してシルバーサドル賞に輝いています。

●角田大河騎手が逝去

角田大河騎手(栗東・石橋守厩舎/JRA通算1593戦90勝)が逝去されました。21歳でした。

●川村禎彦調教師が逝去

川村禎彦調教師(栗東/JRA通算7311戦426勝)が逝去されました。66歳でした。なお川村調教師の全管理馬は庄野靖志調教師(栗東)に馬房の臨時貸付を行ったうえで転厩となっています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ドンフランキーがクラスターC(盛岡)で3度目の重賞制覇

台風の影響により12日から順延となったクラスターC(JpnⅢ、8月14日、盛岡、1200m)は、逃げた単勝1.8倍で断然人気のドンフランキー(池添謙一騎手、牡5歳、父ダイワメジャー)がクロジシジョーを半馬身差で退けました。ケイアイドリーが3着に入り、3番人気のジレトールは4着、2番人気のコスタノヴァは6着に敗れています。

●北海道スプリントC(門別)でチカッパが初の重賞タイトル獲得

今年から3歳馬限定戦に変更された北海道スプリントC(JpnⅢ、8月15日、門別、1200m)は、中国から追いつけた3番人気のチカッパ(武豊騎手、牡、父リアルスティール)が、先に抜け出した2番人気のエートラックスを残り100m標識の手前で差し切り、初の重賞制覇。ジョーローリットは5着、単勝1.9倍で1番人気のエスカルは見せ場なく7着に敗れました。

●プリフロオールインが高知三冠を達成【各地の主要3歳重賞】

黒潮菊花賞(8月4日、高知、1900m)は、先手を取ったプリフロオールイン(牡、父アニマルキングダム)が後続を5馬身引き離し、単勝元返しの圧倒的支持に応えて史上5頭目の高知三冠を達成しています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1ジャックルマロワ賞～チャーリンが3馬身差で制す

現地8月11日にフランスのドーヴィル競馬場で行われたG1ジャックルマロワ賞(3歳上牡牝、芝1600m)は、S.デソウサ騎手を背に先行したチャーリン(牡4歳、父ダークエンジェル、英R.ヴェリアン厩舎)が3馬身差で優勝しました。2着に今年の仏2000ギニー馬メトロポリタン。このレース3連覇を狙ったインスパイラルは大きく出遅れて2着からアタマ差の3着でした。勝ったチャーリンは2歳10月のG2クリテリウムドメゾンラフィット(芝1200m)で重賞初制覇。昨年は7戦して未勝利でしたが、今年4月のG2ベット365マイル(芝1600m)で2つ目の重賞勝ちを収めると、G1ロッキンジS2着を経て向かった前走6月のG1クイーンアンS(芝1600m)を2馬身1/4差で制してG1初制覇を果たしていました。

●G1アーリントンミリオン～ネーションズプライドが制す

8月11日にアメリカ・バージニア州のコロニアルダウンズ競馬場で行われたG1アーリントンミリオン(3歳上、芝2000m)は、W.ビュイック騎手が騎乗したネーションズプライド(牡5歳、父テオフィロ、英C.アップルビー厩舎)が6頭立ての3番手追走から直線で抜け出して優勝しました。G1は3歳時のサラトガダービー(芝1900m)、4歳時のダルマイヤー大賞(芝2000m)、カナディアンインターナショナル(芝2000m)に続く4勝目です。